

会議名称	平成 30 年度 第 3 回杉並区地域自立支援協議会 記録
日 時	平成 30 年 11 月 19 日 (月) 13:30～16:00
場 所	区役所中棟 6 階第 4 会議室
<p><出席委員> 高山由美子委員 (会長)、春山陽子委員 (副会長)、田中崇委員、能勢豊委員、金子めぐみ委員、田中雅子委員、島田祐次郎委員、川口理恵子委員、渡邊英夫委員、田中直樹委員、鈴木正道委員、阪東智子委員、継仁委員、寺西宏晃委員、島田有三委員、修理美加沙委員、下田一紀委員、細貝長武委員、永田直子委員、田中澄子委員、</p> <p><欠席委員> 平由美委員、相田里香委員</p> <p><傍聴> 1 名</p> <p><出席幹事> 保健福祉部障害者施策課長：河合義人、障害者生活支援課長：諸角純子 杉並福祉事務所高井戸事務所担当課長：岡本幸子</p> <p><事務局> 障害者施策課：目黒紀美子、池田恵子、佐々木夏枝、星野健、田邊信広 (記録) 障害者生活支援課：岸義久 高齢者在宅支援課：藤代陽子</p>	
<p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 会長挨拶 3 報 告・検 討 <ol style="list-style-type: none"> (1) 幹事会報告 (2) シンポジウム実行委員会報告 (3) 差別解消地域支援会議より (4) 地域移行促進部会 知的グループより活動報告及び検討 (5) 相談支援部会より活動報告及び検討 (6) 地域生活支援拠点検討チームより報告及び検討 4 閉会 	

【配布資料】

資料1： 幹事会での検討

資料2： 平成30年度 シンポジウム実施案の報告

資料3： 差別解消地域支援会議の報告（別添資料1～4まであり）

資料4： 地域移行促進部会（知的グループ）活動報告

資料5： 相談支援部会活動報告

資料6： 地域生活支援拠点検討チーム報告

資料7： 地域生活支援拠点イメージ図

参考資料： 障害者虐待防止に関する区の取り組み状況について

【内容】

1 開会

○第2回が台風により中止。

この間の障害者雇用の水増し報道等を受け、杉並区の障害者の就労について報告

<岸係長より報告>

- ・杉並区として法定雇用率2.5%を達成している。
- ・国のガイドラインに基づき、手帳で障害者である事を確認するようにと記載あり。

<諸角課長より補足>

- ・雇用については、区として法定雇用率は達成。
- ・特別区の障害者枠の採用は、今まで身体のみに限っていたが、次年度から全障害に広げた。区としても、チャレンジ雇用として雇用させて頂いているが、身体の方は雇用先がある事から知的の方のみとしてきた。今後は特別区ならい次年度から全障害に広げ受け入れていくこととする。
- ・障害者雇用については、合理的配慮など受け入れ側も努力が必要。働き方についても、選択肢が広がったという意味では、本人に合った仕事を見極めていくというところで、本人のご意向、支援者とも意思疎通を図りながら進めていきたいと考えている。

2 会長挨拶

差別解消地域支援会議の進め方も意見が欲しい。地域生活支援拠点の検討チームからの報告もあるので意見をお願いしたい。できるだけ協議の時間をとっていきたい。

3 報告・検討

（1）幹事会報告 資料1参照（目黒）

地域移行促進部会からの報告について

精神G～昨年度からの長期入院者の状況把握、病院との連携、一般相談支援事業所が少ない。

知的G～すだちの里の現状と課題から見えてきた事が多くある。GHが少ないだけでなく、ハード面、ソフト面での課題ありと報告。

<頂いた意見>

- ・(精神) 現在入院している人。きっかけさえあれば退院できるが実態が見えにくい。区からの実態調査の訪問は続けてほしい。
- ・(知的) すだちの里からの GH への地域移行について。支給決定を受けるほどではない。都外の方は旅費の問題もあり難しいのでは。GH の受け入れが少ない中、知的の方の地域移行を 1 つの事業所で担うのは負担が大きい。

→幹事会で整理

- ・一般相談支援事業所を増やすだけでなく、計画相談を担う一般相談支援事業所を増やす取り組みも必要。ただ報酬改訂の問題もあり新規事業への参入に取り組めるか課題もある。
- ・同時に、今ある相談支援事業所を支えていく必要がある。→別の機会に整理
- ・精神 G では、今年度病院にアンケート調査を実施。返答のあった病院へは訪問を実施。取り組みにはマンパワーも必要、幹事会メンバーからも協力し訪問を実施。後 4 件ほど残しているが、ほぼ終了。課題整理中。
- ・地域生活支援拠点については、この後報告。
- ・シンポジウムの実行委員については、立候補者がいなかった為、事務局に一任させて頂き選定。この後報告。

(2) シンポジウム実行委員会報告 資料 2 参照 (田邊)

- ・事務局で実行委員を選出

どんまい福祉工房 (渡辺委員)、ワークサポート杉並 (川口委員)、すまいる (春山委員、寺西委員、島田委員)、事務局

- ・実行委員会を 2 回開催。目的等を確認し、今年度は 1 月 24 日 (木) 13 時半～2 時間、第 4 会議室にて開催予定。内容について、昨年とあまり変えず昨年のアンケートを受けて 2 部構成。前半は、協議会の本会の報告を高山先生から説明頂く。その後、働き方サポート部会からの報告(島田委員より)、杉並区就労支援の報告 (ワークサポート杉並の長野次長より)、休憩を挟み、後半はメインのパネルディスカッションとし、テーマを「地域で働き続ける」ということで、身体は菱沼さん、知的はどんまい福祉工房の就労移行を利用し松屋フーズに就職された当事者の方に登壇して頂く予定。ご本人と話し、職場に伺い話をしている状況。

- ・チラシを 12 月上旬に配布予定。12 月 15 日号の広報に掲載、HP にも合わせてアップ予定。

(3) 差別解消地域支援会議の報告 (目黒)

- ・第 1 回を 7 月に開催。報告内容は資料 3 を参照。都は案が取れた状態で条例を制定。
- ・区の取り組みとして 6 月 23 日、高円寺中学校でインクルージング教育を実施。非常に手ごたえがあった。詳しい内容は別添資料を参照。ゲーム感覚での体験を通じて知的障害、精神障害者の理解を深めてもらい、当日は能勢委員にも当事者、ピア相談員の立場から参加頂いた。主催側としては非常に有意義な時間と思っており、参加した生徒からも非常に良かったとの声は頂いた。
- ・区政モニタリングの分析結果の報告について、別添資料②参照。状況として、障害当事者との交流機会が不足している、学校教育、特に幼少期からの交流の必要性が声として上がっていた。
- ・今年度は 2 つのグループに分かれて活動を展開していく。仮称「アクション部会」は主に普及啓発、

仮称「検討部会」では、都が条例化したことを受けて区として条例を目指すかは別としても、同じ方向を向いて議論。何か作っていけないかというところで活動していくことが決定。

・アクション部会→先週、第1回目実施。「地域普及部会」に名称を変更。また、既にこれまで実際に、それぞれの障害者団体の方が具体的な活動（ゲストティーチャー、出張講座等）を行っている事が明らかになった。それぞれの取り組みを活かし、広げて、仕掛けをしていくことで共通認識を持たせた。

・検討部会⇒今日の午前中実施。区として目指す所をざっくりばらんに意見を出したところ。障害者と健全者の壁をなくすためにも、条例があったほうがいいのか？今後、条例化するかどうか検討。

<委員の方から補足>

・能勢

インクルーシブ参加した。中学生の段階から障害者に対して学ぶのは大事だと改めて思った。まだ価値観が固まる前に考える機会を持ってもらう事が大事と改めて感じた。今後も続けてもらいたい。

・高山

学校の間でも取り組みは継続、単発のものもある。インクルーシブは今後も続けるのか

・山本

初の試みだったが、生徒のいい意味の反応があった。今の段階で学校から続けてもらいたいと要望あった。

・目黒

教育委員会にも報告を渡し、他の学校からも声が広がっていききたい。

・高山

2回目の部会が年内、部会の役割分担をみんなが判るようにしていく必要があると感じている。協議会の元に差別解消地域支援会議が位置付けられている、何か意見はあるか。

・春山

地域普及部会委員。勉強になった。今後の取り組み、どういう方向に向かってやっていくかの議論が重要と感じた。情報提供と協議会からも何か提案があれば聞きたい

・修理

地域普及部会について、区の企画、シンポジウムもある。色々な場、ツールを利用して普及啓発して行ってほしい。

・下田

検討部会に参加。事例が集まっていない。杉並区でどういったものをめざすか見えずらい。

皆さんの中でも、いい事例も含めて、障害者施策課の管理係に連絡してほしい。当事者が気付きにくい場合もある（知的の方は特に）。気を配って情報を集めてほしい。就労の場面などでも。

・高山

運営の事務局の方で2つの部会の意見を整理してほしい。

(4) 地域移行促進部会報告 資料④参照（鈴木）

・支援者の人材不足。働きたいと思っている人もおりミスマッチが問題では。各法人で応募をかけている。区の方で合同説明会、共同募集ができないか。

- ・発信が大切。外国人の採用、AI、IT等の活用も必要か。
- ・ヘルパーの人材不足の問題。移動支援はマンツーマン、複数対応、車の利用が認められないか。
- ・運営が厳しい、個別性の高い人の支援が困難。他職種との連携、ネットワーク事業（世話人のバックアップ）の必要では）
- ・出かける先を見つけるのが大変。土日に簡単に出かけられる場（交流の場等）があれば。
- ・GHの数不足。物件が見つかっていても人材が集まらず進まない。
- ・地域移行と日中活動先を同時に見つけるのが大変。
- ・区内のGHの受け入れが難しい、区外の日中活動先の情報が少なく、地域移行が難航。
- ・「人材確保、定着」が課題
区民理解も深めてもらいたい。介護の仕事3Kとされている。感謝・感激・感動。ポジティブ3K。イメージのPRできないか。
- ・部会の在り方も今後検討する必要があるかと。意見をもらいたい。

○「人材確保の提案あればお願いしたい」

・高山

社会福祉領域の全体の問題。

・河合課長

人材不足深刻。予算の要望はある。保育の方は動いているが障害、高齢分野はなかなか進んでいない。一緒に考えていきたい。移動支援に関する事。ご提案を受けて、移動全体では区でも現在見直ししている。

・諸角課長

人材の育成、すぎのきでも課題となっている。人員を採用していない時期もあり間が空いている。40代が少ない。重度の知的の支援のスキルをどう継承していくか。人材の確保は公立と民間との格差が大きい。

募集がこない。定着しない。離職の理由は、給料の面、仕事がハード、定着の確保。

定着しているところがどうしているか情報共有させてもらいたい。区としての支援の質を上げていく為研修など区でも検討している。公立施設のありかたも検討している。どういう形がいいか。今のままだと、人材の枯渇を止めることはできない。公民の垣根を超えて一緒に考えていく課題と思っている。

・高山：各事業所から参加している。何か意見を

⇒魔法陣

常勤24名。非常勤6名。時間を切り売りしている。できるだけ常勤をとろうとしている。給料が安くて、やめる人はあまりいない。今は補助金ではなく、報酬制。+-0ではなくなった。動きやすくなった。50代2名、半分は20代。今後赤字になる。融資をしてくれるところを探す。事業の見通し。法人としては、できるだけ給料に回す。会社でためない。以前は公務員の給与体系を利用していたが、今は都の中小企業の平均をとっている。50台で700万程度にしている。公と民の格差をなくす補助、何かお金を支出してもらおう仕組みをつくってもえると安心して働けるのではないかと世田谷区では、地元の事業所で地元に住むと家賃補助だすなどしている。

・高山

人材を送り出す立場、責任を感じている。

合同説明会。学生に評判が良い。個別に回るのが面倒。1か所でいくつか回れるとよい。

説明会やってもらえると助かる。親元から通いたい学生が結構いる。

ミスマッチの問題。学生はインターンシップを利用したがる。

3～5日間で、支援だけではなく運営等含め、広い意味での職場体験をしたいと考えている。そのあたりを受け入れる施設でも共有してもらえるといい。実習もうけていて大変だと思うが。

5年たったらどうなるか、10年後どうなるか。見通しがあるといいと思う。自分がこの先どうなっていくか見えるといい。

求人方法については、いい求人票、そうでないものもある。大学に相談してもらえるといい。個別に。専門にも学生の目線で。

神奈川県は、家賃補助あり。1年間全額負担等、実施している法人もある。1法人では難しいだろうが、区全体でできないだろうか。具体案で進めるのを期待したい。

・永田

理事会で必ずワークをやる。全体だけの話だけにならないようにという意味で。

利用する側の立場から、利用できないこと分かってもらいたい。支援が大変という話で終わってしまうことが多い。例えば、いつも2時間利用するところを、1時間しか利用できないなどある。実際、自閉症の子はルーティンが崩れるなどもある。支援者の仕事がハードになっているのは、自分たちの子どもたちなのだとなると、申し訳ないという気持ちになることもある。どういう事態も拾っていただける場が欲しいと思う。

・佐藤

差別解消地域支援会議の報告にもあったが。小学校・中学校大事。5年10年先を見越した教育が非常に大事。将来の担い手を考える必要がある。福祉のマインドがない人が実際にいる。経験のない人もいて苦情に繋がる事もある。先を見越して考えていくことが必要。

今後の地域移行促進部会について、再編も考えているがいかかが。

→・目黒

精神Gは、病院からの地域移行はまだまだ40年、50年と長期入院している方がいる。まだ入院している人は困難性が高く課題も多いので、継続して検討が必要。知的Gは、相談支援部会の課題とかぶるところが多いので、今後再編も考えてもいいのでは。ご意見いただければ。

・修理

相談支援部会でも高齢期の障害者の方について、その中で今まで介護保険の移行期の問題に注目してきた。この間、協議会に阪東委員や会田委員が入って頂く事や一緒に研修をすることで、一定の成果は出たのでは。相談支援部会でも、地域で高齢になった時、介護サービスに行けない方、特に知的の方、(加齢による、送迎がない等)、本人は希望しているが環境的に通えない等の課題に着目して、地域で暮らしていくのをどう支えていくか、サービスだけではない支え方について考えていたところ、事務局から知的の地域移行促進部会にも共通の課題があると聞いた。繋がる場所は繋がり、形を変えて色々な人が関わり課題解決に向かって進めていければと考えている。

・春山

相談支援部会は常設部会として活動してきた。以前も知的の方から、活動の見直しの話は出ていた。

新たな課題が発生し対応していく中で、その都度必要な活動に焦点を当てて、より効果的な活動と日頃の支援の業務の中で連携ができればいいと思う。

鈴木委員からの交流の場という話については、すまいるは土日も開催している。各すまいる GH の利用者に対して支援も考えられるかと感じている。場所の問題はあるが、例えばカラオケ大会など。

・高山

今日結論というわけではないが、今後どうしていくか、部会間や幹事会での協議していきながら、次年度以降どうしていくか方向が出ればいい。検討を続けてもらいたい。

(5) 相談支援部会より活動報告及び検討 細貝

<活動報告> 細貝

・相談支援部会の活動内容を説明。A～E の 5 グループで活動。

A～「他職種連携」成年後見センターから制度や役割について説明。意見交換。

実際に後見人が本人に合ってくれない等、本人に不利益が生じた際には家庭裁判所に相談できる。成年後見センターの個別ケースは制限なく直接センターに問い合わせ可。

B～「重症心身障害児」今年度新しく開設した、放デイ（くじら、八成）の見学、中野特支の学校公開へ参加

C～「高齢期の課題」ケアマネ協議会と連携し、ワールドカフェ方式の研修を開催。ケアマネ 40 名 特定 40 名参加。お互い連携を求めている。来年もケアマネとの研修を検討。

D～「移動・外出」、11/29、移動支援事業所との連絡会実施予定。講演と交流会（16 事業所、特定 20 名、参加予定。）区内 80 か所にアンケート実施、40%回収率。

E～「児童」関係機関とのネットワーク作りをベースに活動。6 月に放デイの連絡会に 1 名参加。7 月、「よりみち」と意見交換。児童に特化して 8 月に「プレミアケアジュニア」の見学、10 月に済美養護見学、中野特支の学校公開参加、今後は高円寺北学童クラブの見学、12 月に子ども発達支援センター、子ども家庭支援センター見学。

<活動報告> 資料 5 を基に説明（下田）

・41 名の大所帯で活動。

・H29 年～グループのリーダー会の活動（川崎市麻生区の基幹相談支援センターの見学の実施、すまいるとの連携の在り方検討）

・H24 年～事例検討を行い、課題を抽出。翌年から課題についての検討を実施してきた。

<今後について> （資料の裏面参照）

現在のリーダー会の取り組みを核にした活動へ展開していく。

・主な役割の確認

・現在、地域ネットワーク推進係が行っている研修（サビ計研修、初任者研修など）とリンクして、杉並区の相談支援専門員の質を上げ、自己研鑽も含めた研修の企画も提案していきたい。

・同じテーマ、課題を検討するのではなく、一定の期間を設けて、部会化への提案、場合によっては福祉計画への提案、連絡会を別の形で作って研修を行う等、課題提起できるような形を考えていきたい。特定相談以外のところが入ってもらえると、風通しがよくなる。

ご意見があれば伺いたい。

・渡邊

課題は生ものなので、その都度、提案いただいた事例検討、課題抽出は大事。幅を広げるのは大事という印象をもった。

・川口

40 人を超える大きい部会。各グループに分かれると他のグループの活動見えにくい。相談支援部会がどこにむかっていくのか分かりにくく難しさもある。そのとき地域で必要な物は変化していく。その時の課題に集中するのはいいかと思う。

・田中（直樹）

相談支援事業所がどちらを向いているのか折りにふれて出てくる。週何日か就労している人が就労 B 使いたいとやってきた時に区が断ってきた。グループホームに対して、区分がでているかどうかで報酬が異なるのに、区が区分を拒否する。相談支援事業所が基になる杉並区の支給決定のプロセスが不明瞭。杉並区独自のルールで動いていると聞く。部会とし 100% 障害者の立場にたった計画を立ててくれる、相談支援事業所になってもらいたいと期待している。

・下田

我々が判っている実態をまとめて発信していく。要求、陳情ではない発信の仕方もあるのかなど。

サービス等利用計画については、課題や社会資源を把握するということも必要。

部会に所属することで連携できていたが、人数を絞れば新規参入が取りこぼされることもあるので配慮しながらやっていきたい。保護者からも、相談支援事業所の質のばらつきがあると指摘を頂いている。一事業所では抱えきれない事もあるが、OJT を行う等少しでも質を上げられるよう努力していきたい。

（6）地域生活支援拠点検討チームより（目黒）

資料 6、7 を基に説明。立ち上げについては前回の本会で了承を頂いた。

・検討チームのメンバーは、3 すまいるセンター長、相談支援部会（下田委員、修理委員、細貝委員）、地域移行促進部会（鈴木委員）、高山会長、川口委員、能勢委員、永田委員、田中澄子委員）、事務局で構成。

・区としてのイメージ図、現段階での案となっているので、今後皆様の意見を反省しより良いものに作り上げていきたいと考えている。

・タイムスケジュール的なところでは、H32 年の設置を目指している。そこに向けて今年度は、相談の部分の議論を重ね方向性を定めていきたい。人材育成については次回検討。

・予算が付けば来年度の半ばにはコーディネーターを設置できる見込み。早急に議論を進め、コーディネーターの役割など意見をもらいたい。

・基幹については、次年度以降は地域ネットワーク推進係を基幹相談支援センターと位置付ける。まだまだ十分なため、どう強化していくか意見を頂きたい。今の体制では申請も受け付けている中、すみわけが難しいため、体制については課内での検討、見直しをする必要があると考えている。

・コーディネーターについての意見については資料 6 に抜粋。

緊急性、困難性での整理をしているが、平素はさほど支援が必要なくても緊急時に動ける体制は必要ではないかとの意見も頂いている。福井県の事例参考に。困難性より「緊急時」への体制、仕組を

求める意見が多かった。特定だけでは緊急時対応が難しい人をコーディネーターにも動いてもらう案も頂いている。

・コーディネーターの設置場所としては、ネットワークを作るという意味で、事務局としても基幹相談支援センターと密に連携し動くことを想定、基幹相談支援センターに配置が望ましいと考え、案として出させて頂いている。

・24時間の対応、土日対応については次回以降検討。

・基幹相談支援センターは、区が責任をもって相談を受けていくという考えの元、地域ネットワーク推進係に機能を持たせると考えている。ただ申請とその際、田中委員からの意見にもあったが、相談支援事業所のバックアップされている感覚が生まれないう点もあり、今の体制では機能が発揮できるのか、意見を頂いている。川崎市麻生区の基幹の見学には、事務局も見学に参加。更に検討を深めたい。

・地域人材育成について

世田谷区では地域の支援者間にメンター制度がある。参考になるのではないかな。

しっかり検討していく予定。

コーディネーターについて意見を

<意見>

・福井県をなぜ取り上げたのか？ →長野県（訂正）

・田中

1人のコーディネーターがどのくらいのケース数を想定しているのか。杉並区56万人いる。

⇒（目黒）段階的に増やす予定であり、最高4名の設置を考えている。何を役割として担ってもらうかによって、パイは少なくなる。意見を頂きたい。

⇒（田中）基幹が一つは絶対少ない。地域を語るのであれば、例えば中学校区にするとか考えないと進まない。地域生活支援拠点が一か所では少ない。地域の活動をするのであれば、なぜ1か所なのか基本的に疑問です。

・渡邊

コーディネーターに臨む機能が多様化している。どんまいの利用者の親の会の意見を聞く機会があった。当事者の緊急性とは別に、親亡き後の権利擁護的な事（成年後見）をコーディネーターから指導してもらえる機能を期待したい。神奈川の事例。事前に準備をしていく為のノウハウが欲しい。

・田中（崇）

不安がある。Webでの相談を受け付けてくれるようにしてほしい。

・高山

タイムスケジュール的な事の提示をしてほしい。

⇒コーディネーターは次年度に1名設置。来年度以降、地域生活支援拠点については当事者の方にも説明をしながら進めていきたい。支援者の人材育成については、研修の予算がある為試しに何かをやりたい。その際には民間の方にも集まって頂きながら、来年度一緒に考えながらやっていきたい。

コーディネーターについては、予算が付くことを念頭に置いて考えて頂き、来年度1名配置。32年度に4名。32年度半ばには、ほぼ考えている中身で行きたい。第2回目の検討委員会はまだ未定だが、今年度中に2回位はやりたい。また、1月に障害者福祉推進協議会、3月中には一定程度の方向

性を固めたい。

・田中

コーディネーターについて、どんなに少なくてもすまいる、福祉事務所のエリアに1人は置いてもらいたい。最初の1名から始め増やしていくのはあまり良い事ではないと考えるがいかがか。

⇒議論の中で、すまいるに配置する話も出た。すまいるの相談が多岐に渡り厳しい状況。

今日いただいた意見を元に検討していきたい。来年度2月一杯までは思いつくままでよいので事務局（目黒、山本）まで意見を頂きたい。

あくまでも予算が付けばの話であり、コーディネーターの設置は1名でいいのか含め検討を重ねていきたい。

・高山

引き続き協議会メンバーには、ご意見を挙げていただきたい。

<事務局より>

・1月24日にシンポジウムの開催。第4回は2月3月に開催する予定

・参考資料について

障害者虐待防止に関する区の取り組み状況について説明（池田）

前年度（H28年度）26件➡46件に増加

以上